

日時：2022 年 3 月 3 日（木）17:00～19:00

場所：Zoom を用いたリモート会議

出席者：坂本慎一（主査）、河原塚透（幹事）、平栗靖浩（幹事）、會田祐、池上雅之、石渡智秋、佐久間哲哉、佐藤洋、杉江聡、辻村壮平、富来礼次、富田隆太、中川武彦、中澤真司、羽入敏樹（前主査）、浜田幸雄、星和磨（敬称略）

欠席者：古賀貴士、平光厚雄（敬称略）

提出資料：

- 2021年度第4回議事次第
- 資料4-0 2021年度第3回音環境運営委員会議事録（案）
- 資料4-1 環境工学本委員会（第4回）資料
- 資料4-2 2021年度小委員会活動成果報告書
- 資料4-3 建築音環境関連書籍刊行について
- 資料4-4 建築音環境啓蒙打ち合わせメモ
- 資料4-5 音環境運営委員会（規準検討小委活動報告メモ）
- 資料4-6 組織図（2022.4以降）

議題：

前回議事録（2021年度第3回）を確認した。下記を修正し承認された。（資料 No.4-0）

修正事項 環境工学本委員会年間予算の配分案：音環境は前年度比0 → 0%

1) 環境工学本委員会の報告（資料 No.4-1）

- ・ AIJESの「絶版」と「廃版」の取り扱いについて：絶版を届け出たタイミングで、企画刊行運営委員会内で、規準を廃止するか、書籍は絶版として（あるいは少部数残して）規準は継続するか、について取りまとめを行い、本委員会で報告および審議するという手順をとる
- ・ 2020～2021年度調査研究委員会活動報告会：2022年3月22日（火）オンライン開催、環境工学からは秋元先生が20分で環境工学全体の動きを報告
- ・ 2022年度調査研究委員会予算配分：前年度よりも若干増えて環境工学全体で11,004千円、音環境は491千円（2021年度は454千円）
- ・ 音環境運営委員会各小委員会への予算配分：本年度配分額、活動計画書などを鑑みて配分案を作成し提出した
- ・ マルチハザードに対応可能な耐複合災害建築に関する検討WG設置の件：構造が設置申請を提出しているが、環境分野、計画分野も連携したWGとなる。環境は秋元先生が委員。
- ・ 委員会等における女性会員の参画機会の拡大について：本会正会員における女性比率は15.5%、準会員では33.9%、全体では16.1%となっており、増加傾向であるが比率をもっと上げたい。
- ・ 2022年度特別研究テーマ選考結果：原発事故に関連する研究テーマが採択された。意匠・構造・環境が連携
- ・ 2022年度若手奨励特別研究テーマ選考結果：4つのテーマから2テーマが採択された。音環境は関係なし。
- ・ 2022年度開始特別研究委員会の追加募集について：構造・環境・計画の分野横断的研究
- ・ 2021年度大会関係：2021年度東海でのアンケート集計結果、伊香賀先生がまとめたSDGs関連活動の分析結果、オーガナイズドセッション講評等が出てきたのでご覧ください。
- ・ 2022年度大会関係：プログラム編成方針 21年度は編組的な発表時間であったが、22年度は基本的には従前に戻る。1題当たり討論含め8分、オーガナイズドセッションは16分。1セッション6題を基本とし、Zoom切り替えのためセッション間に10分間の準備時間を入れる。
パネルディスカッション 北海道の方々を中心にカーボンニュートラル実現に向けた討議が行われる。
- ・ 第34回環境工学連合講演会：5月31日に行われる。建築学会からは伊香賀先生が講演

- ・ 2022年度大会プログラム編成について：プログラム編成会議 4月20日～26日（原則オンライン開催）
4月20日学術推進委員会 →音環境関連の全てのデータが配信 →幹事団で仕分け →小委員会主査 →Zoomにて会議（22日 開催時間は後日） →プログラム決定
- ・ 調査研究委員会広報委員の指名依頼：環境工学は東京大学の岡先生
- ・ 大会若手優秀発表賞：音環境は従前どおりとする。
- ・ 環境工学委員会企画刊行運営委員会からの要望：AIJESは冊子体と電子体の2種類あるが、建築書店のHPでは冊子体で出版されたもののみが掲載されており、現状では電子体の書籍にたどり着くのが難しい。要望として、紙・電子を問わず環境基準に関する書籍の購入情報を一覧の「環境基準」からリンクして欲しい。
- ・ 刊行計画：環境心理生理運営委員会から1997発刊物の改訂計画が提出された。今後の参考とするため、経緯説明を辻村先生にお願いした。2016年度くらいから改定の話があり、2017年度から4年間WGを立ち上げた。原版の執筆担当の先生に入ってもらい経緯、進め方など話を聞くところから始めた。目次、構成などを新しいキーワードを含めて検討した。具体的な中身は2年後くらい。合宿形式の委員会も開催した。2020年度に刊行委員会に移行し、2年目の今年度刊行計画書を提出。
- ・ 催し物実施計画書：チュートリアル「音環境の数値シミュレーション[第二版]」第1回波動音響解析の技法が承認された。2022年8月8日 13時～ 開催 建築会館会議室とオンライン併用 2回の予定（2回目は次回承認予定）
- ・ WG設置申請：音環境からは「実用的遮音計算方法WG」「吸音設計AIJES検討WG」「集合住宅音環境AIJES検討WG」の3件の設置が承認された。
- ・ 委員委嘱・解嘱：室内音響小委員会 佐藤先生が辞退のため解嘱

2) 各小委員会・WGの活動報告（2021年度小委員会活動成果報告）（資料 No.4-2）

① 固体音小委員会（主査欠席）

- ・ 2021年度は6回開催、ボール衝撃源とタイヤ衝撃源の測定値、評価量の関連性など検討。自己評価はB。
- ・ 第4回を12月7日、第5回を2月9日に開催。今年の大会OSの内容等に関する議論など。

② 集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会

- ・ 2021年度は2回開催。鉄道騒音の測定・評価手法の検討として聴感実験などを実施。自己評価はB。
- ・ 第1回を1月24日にオンラインで開催。聴感実験結果に関する討議、WHO文献の読み合わせなど。第2回を3月24日に開催予定

③ 建築音響測定法小委員会

- ・ 2021年度は6回開催、音響エネルギー密度に関する実験やシンポジウムの企画など。自己評価はA。
- ・ 第4回を11月7日、第5回を1月26日にオンラインで開催。シンポジウムについての討議。3月1日にシンポジウムを音響数値解析小委員会と共同で開催。

④ 室内音響小委員会

- ・ 2021年度は3回開催、一般空間の室内音環境向上を目指し、方策、具現化するためにWGを設置し活動。noteを使用した発信開始。自己評価はB。
- ・ 第2回を1月31日にオンラインで開催、各WGの進捗報告やフリーディスカッション。第3回を3月31日に開催予定

⑤ 音響数値解析小委員会

- ・ 2021年度は4回開催、「音環境の数値シミュレーションー波動音響解析の技法と応用ー」第二版の刊行、シンポジウムの開催など。自己評価はA。
- ・ 第3回を12月24日に開催、シンポジウムを3月1日に建築音響測定法小委員会と共同で開催し、75名の参加があり盛会であった。

⑥ 音環境規準検討小委員会

- ・ 2021年度は6回開催、集合住宅の音環境のAIJES刊行を目指し、刊行準備WGを立ち上げる方針でプレWGを開始など。自己評価はA。
- ・ 第5回を1月7日に開催、集合住宅以外のAIJES整備方法について議論。第6回を3月7日に開催予定

- ・ 集合住宅音環境AIJES検討WG：3回のプレWGを開催しタイヤL評価とボールA評価の両論併記などについて議論

⑦ 企画・広報 WG

- ・ 第4回を12月9日に開催、11月の音環境運営委員会で議論した社会還元促進の内容報告と討議。建音検索の2019年からの整備を再開。第5回を3月に開催予定。

⑧ その他

- ・ 司法支援建築会議普及交流部会から、建築紛争フォーラム（大会の関連行事）22年度は北海道支部が主催で9月4日「積雪寒冷地特有の建築紛争の現状と課題」、司法支援建築会議講演会12月9日「自然災害を巡る建築紛争の実態と対応」

3) 各他学会・研究会の予定

- ① 日本音響学会・建築音響研究会：3/29 DAIKEN秋葉原テクニカルスペースにてハイブリット開催予定。4/28 オンライン開催予定

- ② 日本音響学会・騒音振動研究会：HP 参照

4) その他

● 音環境に関わる刊行物の計画的検討について（資料 No.4-3）

- ・ 書籍の改訂、発刊については企画・広報WG内で継続的に議論されてきた。運営委員会においてもボトムアップでは進まないためトップダウンが必要であるとの意見もあった。
- ・ 実務的騒音対策指針(第二版)は在庫部数が少なく、企画・広報WGではアップデートが必要であると判断。→2022年4月実用的遮音計算方法WG設置（古賀主査）にて対応、設計計画パンフレットのアップデートおよび統合も検討対象、今後定期的な改定の仕組みに乗せるためAIJES化の検討も行う。

● 建築音環境の啓蒙について（資料 No.4-4）

- ・ 前回11月の議論の内容を幹事団+星先生+辻村先生で2月に打ち合わせを行いまとめた。
- ・ 電子媒体のコンテンツは散在しているためターゲットの明確化が必要。
- ・ 受動的な一般の方々への情報発信方法の議論がまず必要。
- ・ 能動的に情報を探す方々への正しい情報を広く伝える方法の議論が必要。
- ・ 企画・広報WG内でも議論を行っているので情報交換を行いながら進めていく。
- ・ 室内音響小委員会においてもnoteによる情報発信を行っているので情報共有が必要。
- ・ 継続的に議論を進めたい。

5) 次回以降の予定

未定

以上